

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

- 「自分をのばし 友達と認め合いながら 地域とともに歩む」
1. 「知」 主体的に考え、意欲的に学び続ける力を育みます。
 2. 「徳」 自他を大切にし自分を律する態度と人を思いやる優しさを育みます。
 3. 「体」 体力づくりを通じ、心身ともにたくましく生きる力を育みます。
 4. 「公」 地域や社会のために、まわりの人と協働する力を育みます。
 5. 「開」 自分をみつめ、多様性を尊重し、共に生きていく力を育みます。

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

自発的・主体的に行動する力
～発信力～

具体化した資質・能力

自分の思いや考えを言葉にして伝える力
主体性・積極性の向上 社会生活の中でそれらを生かせる力

中期取組目標

1. 子どもが活用可能な資質・能力を身につけていくことのできる教育活動を推進します。
2. 子どもが自分や友達のよさを認め合い、自尊感情を高めることのできる指導や支援をします。
3. ひと・まち・家庭・自然等とのかかわりを深める活動を推進し、子どものコミュニケーション力を高めます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①子どもが獲得した知識を活用できるよう、学習指導の内容や教材を学年内で共有する。また、中・高学年で教科担任制を実施し、低学年でも一部教科担任制に取り組み効果的な指導を行う。②協働的な学習の場を積極的に取り入れ、子ども同士の関わりを増やすことで、自分の考えや友達の考え方のよさに気づきながら思考力を伸ばす授業づくりをする。
担当	重点研究会

学力向上に関わる本校の状況

(1) 学力に関わる児童の実態
学力は、横浜市の平均と比べて全体的に下回っている。前年度と比べても下がっている学年、教科が多い。また、学年が上がるにつれて、学力が二極化してきている。学習意識や生活意識は、学年によって多少の差があるものの高い傾向にある。

(2) これまでの学校の取組状況
・素直でよく話を聞く子どもたちである。一方で、「こんなことをやってみたい」という思いをもち、実現に向けて取り組もうとする児童が少なく感じている。そこで思いを表現し、相手に働きかける活動を単元の中に取り入れ、授業の中でどのような手立てを打つことで子どもたちに発信する力を身に付けさせることができるのかを研究を通して見取ってきた。

今年度の目標

「もっと知りたい、やってみたい」という思いを引き出す単元構想づくりに取り組む中で、「考え、行動し、かかわり合う」といった主体的に行動できる子どもの育成を目指す。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期

低学年「まわりに興味・関心をもつ」
自ら進んであいさつすることで身近な人の存在に気付けるようにする。学習全般を通して、「ひと・もの・こと」との関わりの中で、自分の思いや考えをもつことのできる場面を位置づける。

中学年「人とかかわりを楽しむ」
体験的な活動や人とかかわる場面を設定し、共に学ぶことの楽しさを実感できるようにする。

高学年「意思決定」
各教科の単元計画を児童とともに考え、児童が見通しをもって活動を進めていくことで、意思決定を繰り返すようにする。既習の学習内容や、今までの成功体験が新しい課題に取り組むためのヒントとなるような手立てをとり、自分の考えをもち、行動できるようにする。

個別支援学級「望ましいコミュニケーション」
あいさつや、友達への言葉のかげ方などを日常的に指導することで、基礎的なコミュニケーション能力を高める。

下半期

低学年「失敗してもくじけない」
失敗や心配を乗り越え、解決方法を子どもが導き出していけるように、積極的に身近な人との関わりを深めていけるようにする。

中学年「思いや考えを伝え合う」
材の設定や単元構想を工夫することで活動を楽しみ、意欲的に思いを伝えようとする。学習や生活の中で多様な考え方や思いに触れることで、自分なりの考えをもつことができるようにする。

高学年「交流し高め合う」
学習の中で、グループで交流する機会を多く設け、交流をすることで考えが高まったり深まったりすることを実感できるような場の設定をする。

個別支援学級「自分の考えをもつ」
○子どもたちの思いを取り入れた体験的な学習を計画することで、「もっと知りたい」「やってみたい」という気持ちで学習に取り組めるようにする。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①YPアセスメントと横浜プログラムを活用し、一人ひとりの子どもに寄り添った指導・支援を継続し、互いに認め合える温かい学級風土づくりを進める。②道徳の授業において、子どもが主体的に考え、道徳的価値をとらえることができる授業を目指す。③自らあいさつできる子どもの姿を目指し、地域と協働してあいさつ運動の取組を継続する。
担当	人権・児童指導部

豊かな心に関わる本校の状況

- ・気持ちややさしく、他の人を思いやることのできる子が多い。
- ・素直で一生涯懸命、やるべきことや役割や明確なことについては積極的に取り組むことができる。
- ・自分の思いや考えをもっている、言葉にして伝えることや、行動に移すことが苦手の児童が多い。
- ・人のよさに目を向けて行こうとする意識が弱い。また、気持ちが弱く、簡単にあきらめてしまう児童が多い。

今年度の目標

互いに認め合う、温かい気持ちになれるクラスや学校にしよう

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期

- ・学校生活についてのアンケート等を通じ、家庭や地域における子どもの実態を把握し、日々の指導に生かす。
- ・校内人権研修を実施し、教職員の人権意識の向上に努める。
- ・1回目のYPアセスメントを実施し児童の実態を把握する。温かい学級風土を目指し、クラスに合った横浜プログラムに取り組む。
- ・たてわり活動を通して、異学年と交流し関わりを築く。
- ・年間指導計画を活用し、学校行事や各教科等、豊かな体験との関連を図った道徳科の指導を行う。
- ・生活科や社会科などで、地域と連携した体験的な活動を行う。

下半期

- ・たてわり活動を継続し、異学年との関りを深める。
- ・あいさつ運動を継続し、児童自ら積極的にあいさつができるようにし、心地よい関係づくりに取り組む。
- ・2回目のYPアセスメントを実施し、学級の様子の変化をとらえ、実態に合った横浜プログラムに取り組む。
- ・人権週間は、命の大切さを学ぶ機会を設定し、自分は大切な存在であることを実感できるようにする。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①体育の授業や運動委員会の児童の活動を通して、年間を通して様々な運動に親しむ環境を整える。②食育部を中心に、給食目標や給食週間を設定し、好き嫌いをなく食べることの習慣を身に付けたり、食の大切さを考えるための取組を実施する。
担当	体育部・食育部

健やかな体に関わる本校の状況

(1) 体育・健康に関する実態
○バスケットボール、サッカーなど地域のスポーツクラブが盛んで、所属している児童は多く。市の平均と比べても運動時間の確保ができて多くの児童が多い。
○休み時間は、校庭で元気よく遊んでいる児童が多い。
○地域に多く公園があるため、放課後も外で遊んでいる児童が多い。
○朝食や睡眠をきちんととれていない児童が市の平均よりも低い。
(2) 体力の概要と要因の分析(全校配付の体力・運動能力調査分析チャートを活用)
令和元年度の新体力テストの結果は50m走、シャトルラン、反復横跳び、ボール投げ、握力が市の平均より上回っている。50m走や20mシャトルランにおいては、学校保健委員会で「体力アップ」を目指して、外遊びを盛んに行うよう取り組んできたことが成果として表れている。しかし、跳の瞬発力、筋持久力、柔軟性においては平成30年度の記録よりも減少していることから今後の課題として残る。(令和2～4年度はコロナ感染予防のため、全項目の実施はできていません。)
○令和4年度では、学校保健委員会と運動委員会が中心となり、縄跳び運動に力を入れました。始める時期が少し遅かったため、令和5年度では、もう少し早い時期に行い、年間を通して縄跳び運動を実施できるようにしていきたいです。

今年度の目標

1. 子どもが活用可能な資質・能力を身につけていくことのできる教育活動を推進します。
2. 子どもが自分や友達のよさを認め合い、自尊感情を高めることのできる指導や支援をします。
3. ひと・まち・家庭・自然等とのかかわりを深める活動を推進し、子どものコミュニケーション力を高めます。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期

- 体育朝会や体育の授業で、年間を通して運動に親しむ環境をつくる。(縄跳び、運動遊びの充実、体育集会等)
- 運動委員会を中心に、縄跳び週間を実施する。跳び方の紹介や、実際にみんなで跳ぶことを通じて、運動するきっかけとする。
- 保健委員会を中心に、ごっこ遊びの楽しさやいろいろな遊び方を紹介し、みんなが運動に親しむことができるようにする。
- 地域の教育力や外部のスポーツ団体と連携して、児童が運動する喜びや楽しさを体験できるようにする。
- 児童の委員会活動を中心に、食の大切さを理解するための取り組みを実践する。

下半期

- 学校保健委員会で、健康な体について取り組む。各クラスでクラス目標を設定し、目標達成に向けて取り組む。取り組んだことを全体が集まる学校保健委員会で報告し合う。
- 運動委員会を中心に、縄跳び週間を実施する。跳び方の紹介や、実際にみんなで跳ぶことを通じて、運動するきっかけとする。
- 運動委員会を中心に、縄跳び週間を実施する。跳び方の紹介や、実際にみんなで跳ぶことを通じて、運動するきっかけとする。
- 保健委員会を中心に、ごっこ遊びの楽しさやいろいろな遊び方を紹介し、みんなが運動に親しむことができるようにする。
- 給食委員会を中心に、給食週間を実施する。バランスよく食べることの大切さについて考えるきっかけとする。